

Explanation of Plate III.

Sedum ettyuense. Upper: A cultivated plant in Toyama. Lower: Comparison of wild (lower) and cultivated (upper) plants.

○台湾・琉球の植物補遺 (11) (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: Supplement of the flora of Ryukyu and Formosa (11)

20) **Rhamnus chingshuiensis** 台湾の花蓮港県清水山から報告されている。*Rhamnus chingshuiensis* は *R. oiwakensis* や *R. lutchuensis* と比較して区別されているが、これらより *R. utilis* シーボルトノキに近いものと考えられる。葉の鋸歯の形や裏面の毛のはえかたは全く同じである。雄花しかないので、雌花を調べる必要があるが、今の所区別がなく、同一種類と思われる。葉が小さい点で変種として区別しておくが、その変異については調べる必要がある。石灰岩地帯に隔離されて生残っているものと思われる。

Rhamnus utilis Decne. var. **chingshuiensis** (T. Shimizu) Yamazaki comb. nov.

Rhamnus chingshuiensis T. Shimizu in Journ. Fac. Text. Sci. et Technol. Shinshu Univ. ser. A. Biol. 12: 46 (1963).

Hab. Formosa: Pref. Hualien, Mt. Chingshui, 1800-2400 m., limestone rocky slopes (T. Shimizu, May 1. 1961, no. 12490, Isotype in TI).

21) **Sinopanax formosana** 台湾特産の種類で、早田文蔵氏は熱帯アメリカにある *Oreopanax* のものとして報告された。李恵林氏は *Oreopanax* とは異なることから、一属一種の新属 *Sinopanax* を作った。然し台湾のものはヒマラヤ、インドシナ、中国西部に広く分布する *Brassaiaopsis* に近い。後者は花梗の先に数個の小包があり、そこから細い多くの小花梗をだして散形に花をつける。*Sinopanax* はこの小花梗が殆んど発達しないで、頭状花序的な外観をもち著しく異って見えるが、構造は全く同じである。類似のことはフカノキ属 *Schefflera* の sect. *Cephaloschefflera* と sect. *Schefflera* との間にも見られ、同一属内の変化と考えられる。

Brassaiaopsis sect. **Sinopanax** (Li) comb. et stat. nov.

Sinopanax Li in Journ. Arn. Arb. 30: 231 (1949)

Brassaiaopsis formosana (Hayata) Yamazaki comb. nov.

Oreopanax formosana Hayata, Fl. Mont. Formosa, 108, f. 14 (1908)

Sinopanax formosana (Hayata) Li. l. c. 231 (1949), Woody Fl. Taiwan, 673, f. 280 (1964)

Distr. Formosa.

22) **Polygala polyfolia** 琉球・台湾のシンチクヒメハギは、初島氏の琉球植物誌では *P. chinensis* L. とされている。*P. chinensis* はフィリピンからインドにかけて、東南アジア熱帯に広く分布する雑草的なものである。細い葉が長い節間にまばらにつき、花は大きく約 3 mm あり、8本の雄しべは、花糸が中部以下で癒合しているが上部は1本づつ離れている。シンチクヒメハギは葉は長楕円形または楕円形で、節間は短く、茎に密集して葉がつき、花はごく小さく長さ 1.5-2 mm であり、雄しべの花糸は中央の2本が離生しているが、両側3本づつは上部まで癒合していて、全く別の種類である。

シンチクヒメハギはセレベス、モルッカス、フィリピン、ニューギニア、ミクロネシアに分布する *P. polyfolia* に一致する。*P. chinensis* とは Chodat の分類によると亜節を異にし、シンチクヒメハギは Subsect. *Buxiformes* に属す。近縁のものはインドシナからインドに分布する *P. brachystachya* DC. である。

Polygala polyfolia Presl, Rel. Haenk. 2: 101 (1830). Merrill, Enum. Philipp. Fl. Pl. 2: 384 (1923). Kanehira in Journ. Agr. Kyushu Imp. Univ. 4: 346 (1935).

Polygala warburgii Chodat in Eng. Bot. Jahrb. 13: 346 (1891).

Polygala simadai Masamune in Journ. Soc. Trop. Agr. Taiwan 3: 114 (1931).

Polygala chinensis (non L.) Hatusima, Fl. Ryukyus, 358 (1971).

Distr. Moluccas, Philippines, New Guinea, Micronesia, Formosa and Ryukyu.

Hab. Formosa: Pref. Taoyan, Chungli (K. Koyama, Oct. 1921).

Ryukyu: Is. Ryukyu, Kunigami, Onna (Z. Kanashiro, July 1, 1910). Manzamo (A. Takushi, Sept. 22, 1968). Is. Ishigaki, Sakieta (Walker et Tawada, Sept. 3, 1951, no. 7220).

Micronesia: Is. Ponape (G. Koidzumi, Jan. 1915). Is. Palau, Aimiriki (O. Okabe, Aug. 22, 1940, no. 26). Is. Palau, Baobel-taob (T. Tuyama, Sept. 1, 1939). Is. Yap, Tomil (T. Tuyama, Sept. 22, 1939).

(東京大学理学部付属植物園)

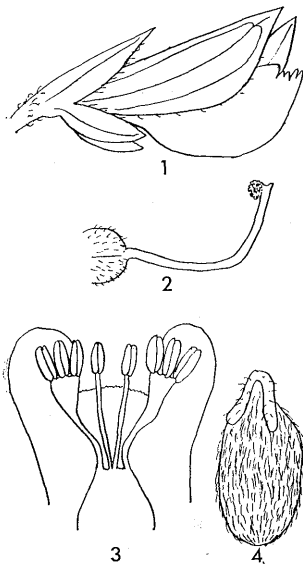


Fig. 1. *Polygala polyfolia*. 1. Flower $\times 18$. 2. Pistil $\times 20$. 3. Stamens. 4. Seed $\times 14$.